科目ナンバリング	U-LAS02 20012 LJ36						
授業科目名 <英訳>	日本語学文献講読論II Reading in the Document of Japanese Philology II			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　　佐野　宏		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・後期	曜時限	火4	配当学年	２回生以上	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

日本語表記史についての最新の研究成果を解説しつつ、何が問題となっているかを説明します。日本語の文字と表記の特質を踏まえて、古代文献を読み解くための基礎的な知識の修得を目的としています。

[到達目標]

日本語表記史上の仮名の成立について、基礎的な知識を修得し、先行研究を踏まえて自ら問題設定ができるようになることを到達目標とします。

[授業計画と内容]

1　日本語史の中の表記史と文字史の異なりについて（導入：１回）
2　仮名で書くということの意味（文体と表記体の交錯）（2回）
3　仮名墨書土器の諸問題（2回）
4　万葉仮名と平仮名（2回）
5　表意性と表語性――訓字の2次的表語性ということ（2回）
6　仮名の成立――平仮名と片仮名の分属契機について（2回）
7　濁音専用仮名の成立と上代特殊仮名遣い（2回）
8　まとめ
9　フィードバック

フィードバックを含め全15回の講義を予定している。2回とあるのは前半と後半という区分であって、主として前半は先行研究を後半はその問題点と解決方法についての解説になる。使用テクスト上での区分としては、第二部から第三部232頁までを予定している。
課題レポートは14回目に行うが、課題については10回目前後に通知するので、各自で調査し考察することとする。

[履修要件]

日本語史についての基礎知識が必要になるので、言学ＩＩを受講していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

基礎的な事項の確認試験を行う（60%）。時折、講義中に小テスト（主として日本文学史の知識を問う予定である）を行うほか、授業への積極的な参加度（40%）を総合的に加味して評価する。

日本語学文献講読論II(2)へ続く↓↓↓

日本語学文献講読論II(2)

[教科書]

内田賢徳・乾善彦 『万葉仮名と平仮名』（三省堂）
他にプリントを配付する。

[参考書等]

（参考書）
参考資料として適宜プリントを配付する。

[授業外学修（予習・復習）等]

テキスト及びプリントを用いて、課題を出す。これによって復習と予習ができるようになっている。

[その他（オフィスアワー等）]

木曜日４限をオフィスアワーとする。会議等で不在の場合があるので、必ず事前に確認をすること。